

ハート 2000 を迎えるにあたって(2000年 20号)

共生・持続・調和 代表理事 安立 一郎

私どもハートの会は発会準備に2年余の時を費やし、平斥私年に創立されました。以来、役員、会員のご協力を得ながら環境に関する総合的な調査、情報の収集それらの提供及び環境思想の普及啓発など幅広い活動を進めてまいりました。

グローバルな地球環境、ローカルな環境を良くするとともに、ものの豊かさよりこころの豊かさをもった人間形成のために、人間教育と意識革命を心がける必要があると考えております。

ミレニアム(1000年紀)の2000年を迎えるにあたり、思えば、1000年前、今日の文明の発展や人口の増加は恐らくは誰も予測し得なかったことでしょう。近々100年前をふりかえって見たとき、現在をどのように予測していたでしょうかつ特に当を得た予言を列記して見ますと

天然色写真通信：外国の状況を早取写真で通信テレビ電話：電話口に対話者の画像を現出 高速の移動車：東京一神戸間2時間半、世界一周は7日要すれば足りる エアコン：暑寒を調節する為に空気を送る機械等々であります。しかし、今日の人口爆発や地球、人類の環境悪化については、予言では少しもふれてはいません。この僅か100年の変化は、地球と人類及び他の生物の未来を危機におとしめています。

あと1年で21世紀を迎えるにあたり、人類の遠い未来、地球が消滅する(約30億年後)まで人類が生存しつづけるための方策を、これから100年の間に打ち立てなければなりません。

地球上に存在するすべての生物は、A、T、C、Gというわずか四つの塩基でできた共通の遺伝子でつくられています。

人間の場合、成人の身体は約60兆個もの細胞からなりたち、その細胞1個1個の核に、二重らせんのひも状の同じDNAがたたみこまれています。このDNAには、30億対の塩基が並んで、約10万個の遺伝子が作られ、それによって細胞の機能が営まれています。

塩基対、遺伝子の数は異なっても、すべての生物は共通の遺伝子構造と機能によってその生命活動を維持しているのです。そこに共生の重要性が見出されます。

地球上で最も見事な「共生」を行ってきているのは、何億年も生きつづけている昆虫です。これは他の生物と非常に良い共生関係をつくっているからです。人類もこれを見習うべきではないでしょうか。

世界の先進国は、環境の産業化によりやく乗り出してまいりましたが、大量生産、大量消費、大量廃棄の現状では、今後100年も現在の繁栄は継続できず、このままでは、人類は200年生存しつづけることさえできなくなるのではないかと危惧されています。

地球と人類生物の持続性を維持するためには、環境負荷の少ない生産をすること、即ち、全エネルギー消費量を減少させること、更に、エネルギー源の転換が必要になります。太陽熱、風力、地熱、海流発電等の大幅な、積極的な利用推進を図らなければなりません。

特に新しい産業として、炭酸ガスを放出しないシステムをつくることが緊急の課題とされています。炭酸ガスが増え続けると、近い将来、地球上に生物は生存できなくなる恐れがあります。

人類の危機を救うには、上記の実施とともに、陸地の緑化により大量の炭酸ガスを酸素に変える必要があります。

先進国の環境問題としては、

1960年～1975年：公害防止

1976年～1990年：環境アセスメント

1991年以降：環境管理

と変遷してまいりました。2000年以降は、「ISO14000シリーズ」を環境の道しるべとして、全産業がこれを取得し、順守することによって、人類と生物の維持・共生・調和の実現に努力しなければなりません。